

Library News

June, 1980

滋賀医科大学附属図書館報

目	次
図書館長に就任して	1
シリーズ「図書館に望む」(5)~(7)	2
図書館から — シリーズ「図書館に望む」に就いて	4
シリーズ文献調査のために(2)	6
図書館の仕事	7
図書館の活動	8

図書館長に就任して

附属図書館長 尾崎良克

このたび、はからずも、野崎光洋館長の任期満了のあとをうけて、本学附属図書館長に命ぜられ、本年3月1日付をもって就任いたしました。大学に長年在職しながら、図書館は専ら利用するだけで、大学におけるその位置付けや使命については、殆んど考えることもなく過してまいりましたので、果して、この重い責務を全うできるかどうか、不安を感じなくもありませんが、何とか努力をして、大学附属図書館についての認識を深めつつ、微力ではありますが全力を傾け、幾分でも利用者の方々のお役に立ちたいと思っております。幸い、本学図書館は、大学創設期の困難ななかであって、野崎前館長を始め、図書課職員の並々ならぬ熱意と努力により、また、全学の教職員の方々の御協力、御理解および温い御支援に支えられ、従来の図書館にはみられない斬新な形の図書館として創設され、順調に滑り出しているばかりでなく、全国の大学附属図書館のなかでも高く評価されていると聴いております。僅かな期間に全くの無からここまで仕上げられた前館長の御苦心と御尽力に対し心から敬意を表わすとともに、既に、本ニュース第1号の「本学図書館の基本構想」のなかで述べられている基本路線をあくまでも守り、更によりよい方向に発展させて行くことが私に課せられた任務と考えております。

開学以来、5年半余を経て、来年3月には、第一期生の卒業を迎え、また、その機に大学院の設置も予定されております。本学は、謂わば、揺らんの時代から脱皮して、躍進の時期にさしかかろうとしています。当然のことではありますが、医科大学の基本的任務である医学の教育・研究および診療の面でも、質・量ともに飛躍的な発展が期待されます。これらの大学の任務を支えている附属図書館

の果す可き役割が益々重要となつてまいりますことは申すまでもありません。今までは、大学院の設置基準を満すため、図書・雑誌を中心とする基本的資料の量的確保に追われ勝ちでありましたが、これも前館長時代の努力により達成され、今後は、質的な面の向上に力を注ぐ可き段階にあります。学部学生の利用はもとよりであります、大学院生を始めとする若手研究者層の拡大に伴う図書館の活発な利用こそが、本学の教育・研究の高い水準と活力を表わす指標となりますので、これからは、これらの層の利用者が思う存分活用できるように、設備・資料の充実と整備を図るとともに、運営についてもこれまでも増して配慮を払つてまいりたいと考えております。特に、最近の学問の急速な進歩と細分化による情報量の急激な増加のなかにあって、必要な情報をできるだけ、効率よく、また、正確に提供できるようにしてゆかねばなりません。そのためには、図書館相互の情報交換の効率化が要求され、図書館の機械化の問題にも積極的な姿勢で取り組んでゆく必要があります。

情報化時代にあつて、図書館業務も益々多様化する傾向にあります。本学図書館におきましては、これらに充分対応しつつ、それらの業務が飽くまでも利用者に対するサービスであるという原点を忘れることなく、鋭意努力を重ねてまいりたいと考えております。まだまだ不十分なことが多く、御不便をかけることゝは存じますが、今まで同様、御支援、御指導、御鞭撻を賜りますよう御願ひ申し上げます。

シリーズ「図書館に望む」

(5) 教官〔基礎学課程— 人文・社会科学系〕

人文地理学教授 井戸庄三

本学図書館の1階ロビーを突き抜けると、医学専門雑誌の書架が並んでいる。赤・黒・青などカラフルな表紙の製本済み雑誌が書架にぎっしりつまっており、さらに壁面にはABCのタイトル順に新着雑誌が展示されていて、医大の図書館らしい雰囲気を醸しだしている。

ところが私は、かねてより本学図書館に何かもうひとつ物足りないものを感じていた。いうまでもなく、単科の医大であるから、人文科学・社会科学の専門図書や雑誌が数少ないのは仕方のないことで、それを充実せよというのは無理な注文である。

私がお願いしたいのは、全国の各大学の紀要類の積極的な収集である。学会誌「人文地理」(人文地理学会発行)の1979年度の政治地理の

業績展望を執筆することになった私は、今春なんども京大および滋賀大の図書館へ足を運ばねばならなかった。多くの大学図書館には紀要コーナーがある。徳島大、金沢大に勤務していたとき、図書館をたずねて多少時間の余裕があると、新着の紀要類を手にとり、関心の深い日本近代史や政治史・経済史の論文を拾ひ読みしたものである。英文学や哲学などの論文になると、その中身はよくわからないが、タイトルに目をどうし、レジュメをざっと読むだけで、何か専門馬鹿から抜けだせるような錯覚におちいったりした。

1カ月ほどまえ、旧友の厚意で今年もまた徳島大学教養部紀要が送られてきた。この数日「初期シンガポールの人口」「イギリス市民革命期の憲法思想研究」「剰余価値論についての一視角」「漱石とConrad」「自然についての幻想—シラーとマンの場合—」などの力作を読み、

かったの同僚の猛勉強ぶりに大きな刺激をうけている。

(6) 教官〔基礎学課程— 自然科学系〕

物理学助手 小林 隆 幸

私が一般的に大学又は研究所の図書館に期待するものは、第一に、できる限り多くの種類のジャーナルを閲覧でき、さらに必要な論文のコピーを手軽に入手できる場所であるということである。第二には、単行本、便覧等がある程度充実していて、そこで何かについて調べる空間が用意されていることである。私個人に限って言えば、図書館というものを、物を考えたり、原稿を書いたりする場所としてはとらえていない。

私達医学とは大分異なった分野にいるものは、本学の図書館を上記述べた第二の点に関しては、幾分利用することができるとしても、第一の点になるとほとんど期待することができない。ところが幸いなことに、最近ではコンピュータによる文献検索が急速に普及しだし、過去数年間の文献に関してはたいていのものを捜し出すことができるようになった。また Telex 等による文献複写が可能になり、かなり短期間のうちに必要な論文のコピーも手に入るようになった。今後大いに利用したいと思っている。ただ問題が全くないわけではない。以前に誰かが指摘されていたように文献検索では適切な Key Word の選択は、多くの場合難しい。またコピーをしてはじめて、自分にとって余り参考にならない文献であることが判かることも多く、無駄なコピーをしている場合がある。Abstract だけを入手できればかなり無駄も少なくなると思うのだが……。ともあれ、図書館というものが、従来のように情報を収集、保管するための機関とし

てではなく、他の場所にある情報を利用者の要求に応じて捜し出し、提供するための機関としての面を強めてゆくことを望みたい。

最後に、他大学の図書をもっと簡単な手続きで借り出せないものであろうかと思う。現在のように入館発行の依頼書を毎回必要とするシステムでは、借りたい本を見つけた場合、改めて依頼書を持ってゆかねばならず、非常に不便である。事務処理上困難な点があることは理解できるが、何とかならないものかと思う。

(7) 地域社会〔滋賀県医師会〕

学術担当理事 饗 庭 昭

滋賀医大の図書館は、昭和49年10月1日の開設以来、野崎光洋館長先生始め、教職員、関係の方々の方々の並々ならぬご努力で、着々と充実しているのはまことに喜ばしいことと存じます。去る3月1日から図書館長の職が、野崎教授から尾崎教授に引継がれたとお聞きしております。野崎教授のご苦勞とご功績に心から敬意を表したいと存じます。新たにご就任になりました尾崎館長のご指導の下に、図書館が益々発展されることを祈念致します。

さて、昨年3月に待望の図書館の新築落成を見、それ以来、私共、滋賀県医師会学術部を始め、各病院図書室関係者との懇談会も開催され、図書館利用のための取り決めもして頂いたことを大変喜んでおります。そして「開かれた図書館」を目指される積極的な姿勢は、私共、地域の医師にとって双手を挙げて歓迎すべき事柄と言えましょう。

このように滋賀医大図書館が、大学の内外の医学情報センターとしての役割を果そうと努力を重ねておられますので、私共としましても、図書館の持つ使命やその機能を十分に理解して

出来る限りの協力を行うと共に、その利用も積極的に行わなければならないと考えています。

図書館利用を促進するために、私共の立場から、次のような事柄についてご配慮頂けるよう希望致します。

1. Library News の配布

図書館の持つ機能、内容、活動状況や利用の仕方をPRする最適の資料としてこのNewsを発行毎に24部頂ければ有難いと思います。その内訳は次の通りです。

県医師会学術部	1部
郡市及び職域医師会(各1部)	12部
各専門医会(各1部)	11部

2. 滋賀県医師会報を通じて一般会員に対する

PR

- ・雑誌リスト(国内、海外)及び貴重な書籍の紹介。
- ・視聴覚教育の機器の利用及びビデオテープのリストの紹介及び貸出し。
- ・文献検索の方法のPR。

3. 必要な文献のコピーサービスの実施。
4. 年間2~3回、図書館ご当局と、私共や利用者の代表の方々、更に各病院図書室関係者との交流の機会を作って頂きたい。

これらの希望の中には、既に実施されているものもありますが、今後、尚一層のご配慮を頂きましたら幸甚です。

図書館の益々のご発展をお祈り致します。

図書館から

— シリーズ「図書館に望む」に就いて —

図書館では、利用者各位から図書館に対してどのようなご意見・ご要望をもっておられるのか、今後の図書館運営の指針にたく“ライブラリー・ニュース”No.3~5までにわたり、各階層から代表的に1名ずつのご投稿をいただきました。

No.3 (1) 教官〔専門課程 — 基礎医学〕
(2) 学生

No.4 (3) 教官〔専門課程 — 臨床医学〕
(4) パラメディカル部門〔看護部〕

No.5 (5) 教官〔基礎学課程 — 人文・社会科学系〕
(6) 教官〔基礎学課程 — 自然科学系〕
(7) 地域社会〔滋賀県医師会〕

この7名の方々のご意見で、図書館に対する全てのことを網羅しているのではなくとも、各層からは代表的なご意見が出されているのではないかと存じます。以下、図書館側の考えを

述べさせていただきます。

1) 広報活動について

全体的に広報活動の不足が指摘されています。例えば、①図書館利用のパンフレット、②掲示板の有効な利用、③視聴覚資料目録の配布、④新着図書目録の配布、などです。これらの中には、以前からご意見の寄せられていたものもあります。

③と④とは今春実施に移し、すでに皆さま方のお手元に届いていることと存じます。①は昨年より検討に入り、現在、2・3の素案をもとに最終的な検討段階で、夏頃には出来る予定で、②については、以前廊下にあったのを玄関を入った所に移し、種々のお知らせに使っております。

何はともあれ、図書館にとって、広報活動は大切なことですので、今後とも心を配っていくようにします。

2) 雑誌バックナンバーについて

ご指摘のように、現在バックナンバーは過去10年(大学の開講年、—1975年から遡って10年—1966年以降)という方針ですが、今まで多くの方から各専門分野の「核」となる雑誌については、過去20年あるいは創刊から揃えてほしいとの要望がありました。これに答えて昨年行なった調査をもとに本年2月の図書館委員会で検討しました。その結果、1位にランクされた雑誌は優先的に購入し、2・3位のものについては種々の要素を併せて次回の委員会で検討することになりました。

3) 開館時間の延長について

昨年4月から実施している夜間開館(月～金:午後8時まで、土:午後5時まで)をさらに延長を、というご意見です。これにつきましては何らかの方法での可能性を検討はしていきますが、本学の地理的な条件等をはじめ、種々、困難な問題があります。

4) 視聴覚資料の内容について

図書館にある立派な(?)ビデオシステムを有効に利用されるためには、先ず第一に教材(ビデオテープ)が多数なければなりません。過去1年間、多方面からのご支援により保有テープは200本を超えました。その中には、故大同教授ご制作によるもの、稲富教授のご制作によるものも含まれております。また、解剖学実習に役立てるため、解剖学講座と連絡を保ちつつ、ビデオテープ制作の企画を進めております。

1本のビデオテープを制作するにも非常に多くの時間と労力を要するため、市販品の購入等他の方法も講じなければならないことをご理解願います。

5) 図書館の行事(展示会等について)

昨年11月に行なった「読書週間記念医学書展示会」は大変好評を得ました。本学の地理的環境の不利なこともあり、出来るだけいろいろな情報を提供していく意味もこめて、他の展示内容と併せ、今後も種々企画していきたいと考えております。

6) Abstractの入手について

「無駄なコピーをなくすため、Abstractだけを入手できれば……」ということですが、文献複写を申込まれる時に「Abstractのみ」あるいは「Summaryのみ」とご指定下されば受付けております。

図書館にある二次資料を用いて抄録をご覧になりたい時には、医学分野であれば、“Excerpta Medica”, “医学中央雑誌”をご覧になれば検索できます。これらの捜し方がお判りにならない場合は、ご遠慮なくカウンターでお聞き下さい。

7) 他大学図書館の利用手続きについて

他大学の図書館を利用する場合、①職員証等の提示だけでよいところ、②一定期間内の「利用証」等を必要とするところ、③毎回、依頼状(図書館長から先方の館長あて)が必要なところ等まちまちです。どの方法をとるかは受付図書館の方針により、本学からどのようにしてほしいとはいえない状況です。

本年1月に出された「今後における学術情報システムの在り方について(答申)」により、「新しいシステムは資源共有の考え方を基調として構成することが有効である。……今後新たに蓄積される可能性のある資源等を含め、有効な相互利用(傍点、引用者)を前提とし、機関間の全国的ネットワークを構成することが望ましい。」とされております。即ち、個々の図書館がバラバラなのではなく、全国にある大学図書館が一つのシステムとし

て機能するならば、図書館利用の手続的な面も問題になってくるものと予測されます。

8) 紀要類の収集について

本学は医学を目的とした大学ではありませんが、単科大学として教養課程（本学では特に「基礎学課程」といっている。）を有しており、しかも、図書館は全学的に集中化されたものとして機能しております。6年間のうち、最初の2カ年を人文・社会・自然科学等の分野にわたり教育し、学習しており、そのための資料を整備し、また、研究活動に資するようではなくてはなりません。

今回ご要望のありました「紀要類の積極的収集」につき、井戸先生と具体的話し合いをもちました。その結果、国立大学と主な公立大学教養部紀要の寄贈依頼をし、「紀要コーナー」を設けていくことにします。

9) 地域社会へのサービスについて

地域社会に「開かれた図書館」を目指している本学図書館として、今まで可能なことは行なってきました。しかし、県内の医療関係者の方々の利用がまだまだ少ないことです。昨年4月の会合で、本学図書館の利用方法、文献の取り寄せ等について話し合いをもち、

“受け皿”は用意できています。より多くの方々の利用を通じて少しでもお役にたつことを望んでいます。

おわりに

皆さま方からの貴重なご意見により、多くのことを再認識いたしました。あらためて図書館の積極的な取り組みをしていかねばと心を新たにしている次第です。と同時に、もっと多くの方々の——学生諸君も、先生方も、看護婦さんをはじめパラメディカル・スタッフの方も、県内の医療関係者の方も——利用をお待ちしております。利用される中でいろいろお気づきのことを何なりとお申しつけ下さい。図書館はそれに応えていきます。“図書館が大学の心臓部”となり、大学における教育・研究・学習の中心的機能を果せるように……。

最後になりましたが、原稿を依頼いたしました7人の諸氏には、日常ご多忙中にも拘りませず快くお引き受け下さいましてありがとうございました。この欄をお借りして感謝の意を表します。今後とも図書館に変わらぬご支援をお願いいたします。本シリーズの幕を閉じさせていただきます。

シリーズ 文献調査のために〔2〕

—索引・抄録誌紹介—

INDEX TO SCIENTIFIC & TECHNICAL PROCEEDINGS 〔ISTP〕

—世界の重要な科学技術関係の会議録
収載論文の索引誌—

今日、科学関係の集会は毎年約1万件開催され、これら学会、セミナー、シンポジウム、コロキウム、大会、ワークショップ等の $\frac{3}{4}$ が会議録 (proceedings)として刊行されているといわれている。

これら会議文献は雑誌文献と同様、研究上重要な位置を占めるものであるが、それが何に発表されているかをさがし、入手することはこれまで非常に困難であった。

I S T Pはこのことを容易ならしめるために、1978年に創刊された。

このI S T Pは毎月刊行され、半年ごとに累積版も出ている。

1. I S T Pの特徴

1) 自然科学および技術の全領域におよぶ (multidisciplinary)

2) 収録範囲 — 毎年刊行される世界中の重要な会議録を索引する。1979年は刊行された会議録のうち約半分の3,000の会議録とその中に収められている10万件的論文を収録している。

分野毎の分布ではライフ・サイエンス、工学、その他でそれぞれ $\frac{1}{3}$ ずつとなっている。

3) 速報性 — I S T Pを発行しているISI (Institute for Scientific Information)

にこれら会議録が到着後遅くとも2カ月半以内、収録された月の終りからおよそ6～8週間後に最新の会議情報に接することができる。

4) 索引の多面性 — I S T Pの本体である各会議録の目次リストのほかに、分類項目、論文の著者・会議録の编者、主催団体、開催地、論文タイトルや会議名・書名中のキーワード、著者の所属機関から本体への索引があり、多面的な検索ができる。

この索引誌の最大の特徴は、どんな会議録が出版されているかばかりでなく、各会議録に収録されている論文を調べることができること、および個々の論文に対しても索引付けがなされていることにあるといえる。

2. I S T Pの使い方

以上の特徴から、I S T Pの種々の索引を利用していろいろな目的に使用できる。

1) 速報性 — 最新の会議録情報のフォロー・アップ

2) 索引の多面性 — 会議録についての不完全で不確かな情報から完全で正確な情報を得る。

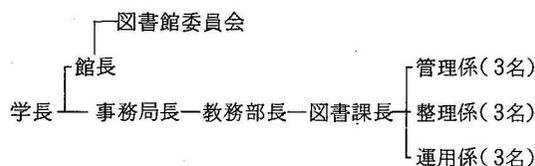
3) 累積性 — 過去に逆のぼって会議録文献を調べることができる等。

図 書 館 の 仕 事

— こういうことはどの係へきけばよいか —

1 図書館の組織

今年度4月1日より、図書館は2係から3係になりました。これにともない、図書館の組織は右図のようになります。



館長は、学長の命を受けて図書館業務を総括し、図書館委員会は館長の諮問に応じて、図書館の運営方針、事業計画、資料の収集・選択方針等、重要事項を審議します。そして日常業務の処理は、図書館委員会の方針のもとに、課長を中心に3係で仕事を分担して行なっています。

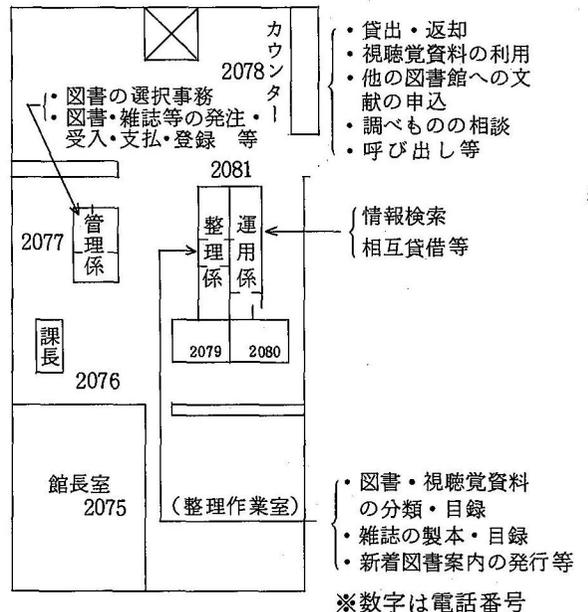
それでは、各係ではどのような仕事が行なわれているかを次にご紹介しましょう。

2 各係の主な仕事

- 管理係 ① 図書館についての総務的な仕事。
 ② 図書の選択事務。
 ③ 図書・雑誌等の発注・受入・支払・登録。その他
- 整理係 ① 図書や視聴覚資料の分類・目録。
 ② 雑誌の製本・目録。
 ③ 新着図書案内の発行。その他
- 運用係 ① 図書や雑誌の閲覧・貸出。
 ② 視聴覚資料や機器の利用。

- ③ 文献の複写やスライド作成。
 ④ 当館にない資料の入手・利用。
 ⑤ 文献や事実・データ等の調査。
 ⑥ オンラインによる情報検索。その他

3 こういうことはどの係へ



図書館の活動 (55・3・1～5・31)

- 55・3・1 新図書館長に尾崎教授就任
- 3・10 学術情報システムに関する大学図書館関係者との連絡会議
- 3・28 近畿地区国公立大学図書館協議会企画委員会
- 4・25 近畿地区国立大学図書館協議会
- 4・26 新入生への図書館利用のオリエンテーション(4・30, 5・1, 5・7の計4回実施)
- 5・8 JOIS-Ⅱセミナー
- 5・13 県医師会と会合
- 5・14・16 JOIS専門研修
- 5・15 国立大学図書館協議会理事会
- 5・30 国立大学附属図書館事務(部・課)長会議

◎来館者の呼び出しは2078番(カウンター)へして下さい。